

「全鍍連」 2021年 2月号 巻頭言

全鍍連技術委員長 小林 明洋 (株)小林工業所 代表取締役社長)

「人間万事塞翁が馬」



余寒厳しい日々が続きますが、組合員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は何かと当会の運営に多大のご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による世界的な危機に見舞われた一年でした。人と人の対面が制限され、物の動きが抑制された結果、政治や経済活動、日常生活に深刻な影響が与えられました。この状況を経験する中で、改めて社会を取り巻く多様なリスクに向き合うことの必要性を痛感しています。年始以降も変わらず厳しい状況が続いていますが、有効なワクチンや治療薬が開発され、それが広く普及することで、この危機的な状況から抜け出せる将来が訪れることを願う毎日です。

人間万事塞翁が馬。誰も一度は耳にしたことがある中国の故事成語ではないでしょうか。この故事成語を座右の銘にされている方も多くおられるかと思います。様々な解釈がありますが、人生における幸不幸は予測しがたいということ、幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるか分からないのだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではないというたとえです。以前から好きな故事成語の1つでしたが、コロナ禍で改めてその意味を確認することで感銘を受けました。先行きが不透明で苦難に直面している時代だからこそ、一喜一憂せず将来を無駄に悲観しない考え方が求められると思います。

今もなお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、景気悪化や医療ひっ迫等、予断を許せない状況が続いています。昨年中止となった全国めっき技術コンクールは、本年は新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインを参考にし、デジタル化への対応や感染症対策を講じた新しい形式で開催したいと考えております。困難を必要以上に恐れず、現状からの改革を好機として飛躍への足掛かりにしていきたいです。